産業人クラブだより ―かけはし―

トップインタビュー

西部技研社長（九州・山口産業人クラブ）　隈　扶三郎 氏

九州・山口産業人クラブの西部技研（福岡県古賀市、092・942・3511）は、デシカント除湿器や熱交換器などを手がける空調機器メーカーだ。心臓部であるロータ技術が強みで、スウェーデン、米国、中国に製造販売拠点を置いてグローバル展開。1月に5カ年の新中期経営計画がスタートした。隈扶三郎社長に事業戦略について聞いた。

（西部・三苫能徳）

◇

―これまでの中計は3カ年でした。

「災害などの予期せぬことが起きた時、業績を3年間ではリカバリーしにくい。このため（何かがあっても）最終的に5年間で計画を達成できるようにした」

―新中計の考え方を教えてください。

「まず10年後の長期ビジョンとして連結売上高100億円（13年12月期は同70億円の見込み）を掲げた。遠くを見て、そこから逆算して5年後の目標を定めた。これから伸ばす事業はソリューション分野とサービス分野。（事業規模を）現状比3倍にしたい。人員も重点的に配置する。中核技術を生かしてソリューションを提供し、ユーザーの声に応えたい」

10年後に売上高100億円
ソリューション事業強化

―海外展開のポイントは。

「米国、スウェーデン、中国の現地子会社の売上高を伸ばしたい。中国には日系メーカーが多く進出しており、日本でのやり方を実践できる。子会社同士の相乗効果をどう生かすかを考えている。韓国と台湾はこれからも本社で見る」

―海外に新拠点を置く計画はありますか。

「東南アジアや中近東、オセアニアなどの市場を開拓するための新拠点を置くことが検討課題の一つになっている。中国リスクを分散するという意味もあり、場合によってはモノづくり拠点にすることも考える。早ければ2―3年後にもとは言えないが、かといって5―6年先になるということでもない。今後の状況を見極める」

―新中計では『Dream at 50th―夢、50年―』を掲げました。

「夢を持てる会社にしたいという理由でこうネーミングした。ちなみに私は5月に50歳になる。14年12月期が50期にあたり、単体売上高50億円を目指す。そして15年7月に創立50周年を迎える。とにかく『50』にこだわっている。事業を成長させるための布石を打ちながら、スタートダッシュしたい」

くま・ふみお　87年（昭62）福岡大法卒、同年西部技研入社。97年専務営業本部長、02年社長。福岡県出身、49歳。

産業人烈伝

目に近づく新時代
デクシス・関　忠男社長　㊤

30年以上にわたり、画像処理検査技術の研究に取り組んでいる関社長

「人の目に近づく新時代へ Imaging company DECSYS（イメージング・カンパニー・デクシス）」。

カタログや名刺、対外的に配布している資料などの片隅に、常にこのキャッチフレーズを記している。画像処理検査技術の高度化にまい進し、幅広い検査装置を展開している当社が、いつまでも追い続けるべき姿であり、この言葉こそが存在理由だと考えているからだ。

私は精密時計メーカーに勤めていた。生産技術部門で組み立てラインを担当していた当時、時計をはじめとする精密機器業界では、ファクトリーオートメーション（FA）が話題になっており、画像処理検査装置事業への参入を視野に入れてプロジェクトチームが立ち上がった。生産現場のことがわかる人間として私も登用された。これが、私と画像処理検査装置との出会いだった。

時計の製造は生産技術の塊だ。部品が小さく、高精度なため、ルーペを駆使して製造する世界。それだけに、FAの重要性は分かっていても、コストや手間がかかるなどの理由で、実用化は進んでいなかった。だが「画像処理検査装置の普及により、時計やさまざまな製品の生産技術に革命が起きる」と確信し、開発に取り組んだ。

1980年代に画像処理検査装置の製品化にこぎ着けた。社内の生産設備に組み込んだところ、現場の評判は上々で、生産技術、営業、開発部隊を巻き込んで外販した。時計はもちろん、コンピューター用部品など顧客のすそ野が広がった。画像処理検査装置の可能性に魅了されて「いつかは主力事業にしたい」との思いを強めていた。

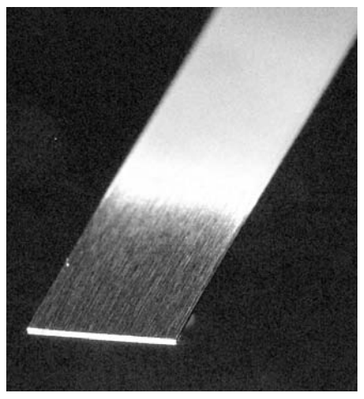
だが、時代は甘くなかった。バブルが崩壊し、90年代の不況で事業環境が一気に悪化してしまった。画像処理検査装置事業はまだ収益の柱になっていなかったため、「撤退する」との判断が下された。

しかし、せっかく培ってきた技術とノウハウ。これを生かし、日本のモノづくりに新しい価値を提案したい。画像処理検査装置事業に携わっていた主力メンバーと、デクシスの設立を決めた。1998年のことだった。

（全3回）

小さくても本物

東京　仲代金属　複合材加工に挑む



東東京マネジメントクラブの仲代金属（東京都足立区、安中茂社長、03・3605・7730）は、世界に先駆けてアモルファスのスリット加工に成功したオンリーワン企業だ。最近では家電や電気自動車（EV）のリチウムイオン二次電池などに用いられるタブリード材の安全性を向上する「バリレス加工技術＝写真」を開発した。安中社長は「これからも難しいテーマを掲げる」とし、複合材のスリット加工に挑む。

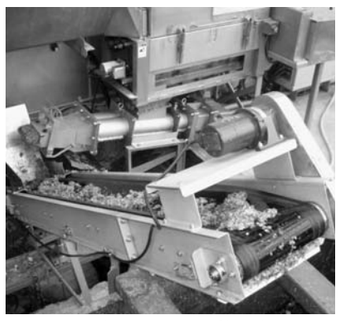
アモルファスのスリット加工、断面が四角のコイル用線材といった画期的な技術を生み出してきた。開発力の源泉は現場で蓄積した経験と知識。1975年の創業以来、請け負った仕事の材料や特性を全て保存しており、「本にして出版したいという人もいた」と笑顔をみせる。

設備は現場のノウハウを盛り込んだ自社開発品で、刃物も専用。新技術であるバリレス加工は模倣などを防ぐため、基本的に技術をブラックボックス化する方針。

これからは複合材の加工に挑戦する。複合材は異なる素材が積層されており、接着剤も使われているだけに、より高度な技術が求められる。ただ、こうした材料だからこそ、加工の効率化により「新製品の開発などに貢献できるし、技術のノウハウも蓄積できる」と、意気込んでいる。

トピックス

福島　加藤鉄工　野菜くず粉砕装置開発



加藤鉄工（福島市、加藤利夫社長、024・534・2111）は、カット野菜工場で発生する野菜くずを家畜用飼料などに再利用するための粉砕脱水装置（写真）を開発した。4月から受注を始める。カット野菜工場ではサラダや炒め物、鍋物向けなどの用途別に切り分けている。生産工程で外側の葉っぱや芯などの使わない部位が発生しており、現在はほとんどを産業廃棄物として処理しているのが実情。加藤社長は「これまで廃棄していた野菜クズを飼料として再利用することにより、カット野菜工場の収益向上にもつながる」と意気込んでいる。

独自の2軸スクリューを採用した。白菜やレタスなどの葉物野菜、大根やニンジンといった根菜、ニラ、長ネギなどのさまざまな野菜くずに対応し、飼料への混入に適した水分含有率に調整できるように1㌢ほどに粉砕する。価格は約2000万円。

主力は工場の排水や下水に混入した異物を取り除く排水処理装置。「加藤式バースクリーン」が混入物を除去する。受注から納入まで打ち合わせを繰りかえして顧客ニーズを反映。高度な切削加工技術を生かして製作している。

「これらの事業で培ってきた要素技術を組み合わせて新たな装置を開発している」。野菜くず粉砕脱水装置もこうして生まれた自信作だ。

2―3月の予定

【2　月】

◇7日（金）東京産業人クラブ女性部会「2月例会『パブリック・マインド』講師／河北博文河北総合病院理事長」（東京都千代田区、KKRホテル東京）

◇10日（月）群馬産業人クラブ「新春講演会＆賀詞交歓会『復権　日本のモノづくり』講師／経済ジャーナリスト永井隆氏」（前橋市、前橋商工会議所）

◇12日（水）埼玉産業人クラブ「分科会『次世代企業連携の姿―世界に羽ばたく、さいたまモデル』講師／さいたま市産業創造財団佐々木哲也氏」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局会議室）

◇12日（水）新潟産業人クラブ「社長会『会員スピーチ・今年の抱負』」（新潟市中央区、新潟グランドホテル）

◇13日（木）栃木産業人クラブ「賀詞交歓会＆特別講演会『子育て支援からみたニュービジネスの課題（仮題）』講師／大塚雅斗キッズコーポレーション社長」（宇都宮市、ホテル東日本宇都宮）

◇13日（木）岐阜産業人クラブ「2014年新春経済講演会＆懇親会『地球規模でニーズを獲得』講師／石川則男OSG社長」（岐阜市、岐阜グランドホテル）

◇13日（木）神奈川産業人クラブ「ミニ勉強会『社員にもお客さまにも価値ある会社―利益をずっと生み出す秘訣（ひけつ）』講師／西浦道明アタックスグループ代表パートナー・公認会計士」（横浜市中区、神奈川中小企業センタービル）

◇14日（金）埼玉産業人クラブ「新春賀詞交歓会＆50周年の集い『変化する世界情勢｜会社経営はどう変わるのか？』講師／ジャーナリスト・キャスター三神万里子氏」（さいたま市浦和区、浦和ロイヤルパインズホテル）

◇19日（水）長野産業人クラブ「2014年新春講演会＆賀詞交歓会『オンリーワン経営を目指して』講師／後藤勇日進工具会長」（長野市県町、ホテル国際21）

◇19日（水）―21日（金）大阪・名古屋・中国四国産業人クラブ合同「台湾産業視察」

◇20日（木）―21日（金）多摩産業人クラブ「広島地域産業視察＆交流会」（広島市ほか）

◇21日（金）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「群馬方面への一日工場見学会」（山岸製作所、ミツバ）

◇21日（金）山形産業人クラブ「新年例会＆講演会『東アジア情勢と日本経済の展望』講師／真田幸光愛知淑徳大学ビジネス学部長」（山形県上山市、日本の宿古窯）

◇26日（水）滋賀産業人クラブ「2月交流会『滋賀ラウンド・テーブル』」（滋賀県草津市、ホテルボストンプラザ草津）

【3　月】

◇3日（月）福島産業人クラブ「福島復興シンポジウム『基調講演＆パネルディスカッション＆交流懇親会』」（福島市、ホテル福島グリーンパレス）

◇6日（木）神奈川産業人クラブ「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会見学会」（東京都千代田区、霞山会館）

◇14日（金）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「親睦ゴルフ大会」（埼玉県嵐山町、嵐山カントリークラブ）

◇14日（金）大阪産業人クラブ「第78回ゴルフ大会」（京都府城陽市　城陽カントリー倶楽部）

◇18日（火）新潟産業人クラブ「社長会『ものづくり支援制度について』」（新潟市中央区、新潟グランドホテル）

◇26日（水）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「第59回親睦ゴルフ大会」（千葉県野田市、紫カントリークラブすみれコース）

タニタ、「健康をつくる」
東京産業人クラブ　谷田社長が講演

東京産業人クラブ（井上裕之会長＝愛知産業会長）は1月16日、ホテルグランドパレス（東京都千代田区）で「2014年新春経済講演会＆賀詞交歓会」を開いた。タニタ社長の谷田千里氏を招いて「『健康をはかる』から『健康をつくる』へ」をテーマに講演した（写真）。谷田社長は「社内の人・モノ・金をどう生かすか考えた結果、書籍出版やレストラン運営などを通じて顧客の『健康』を包括的にサポートする事業へと発展させた」と強調した。会場には約120人が集まり、熱心に耳を傾けた。

谷田社長は2008年の就任後、体脂肪計が好調だったタニタで新機軸を打ち出した経緯を紹介。出版社の提案から社員食堂のレシピを紹介する書籍を発刊し、シリーズ累計532万部（13年11月時点）の大ヒットとなった。読者から「実際に食べてみたい」という声が殺到したため、「サービス業は未経験だったが、企業は顧客の望みに応えるべきだと考えた。失敗するなら社長就任後の早い方が良いという考えもあり、12年にレストラン運営に踏み切った」と振り返った。

現在は運動・食事・休養の3要素を活動量計や睡眠計といった測定器とサービス面で一体支援する「タニタの健康サイクル」を掲げ、メーカー機能だけではなく、コンサルティングにも力を入れている。

また最近の試みとして社員の健康状態を改善する「タニタ健康プロジェクト」をはじめ、実際に医療費削減の効果を上げたことも披露。「あらゆる方法を使って『タニタ』の認知度を向上するという発想で取り組んでいる」と明かした。時にユーモアを交えて会場を盛り上げた。

その後は賀詞交歓会に場を移した。井上会長は「14年は明るい年にしなければならない。日本を支える中小企業が発展するようにがんばろう」と呼びかけた。会場ではクラブ会員らが交流に花を咲かせた。

社運隆昌を祈願
神奈川産業人クラブ　新年合同祈祷会

神奈川産業人クラブ（三木治一会長＝三木プーリ社長）は1月16日、神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮で、新年恒例の「新年合同祈祷（きとう）会」を開いた。三木会長ら12社の代表者が参加し、強い寒波の影響で冷え込みの厳しい中、本殿に昇殿して「社運隆昌」を祈願した。

参加したのは三木会長のほか、日本耐熱線工業の石塚敏夫社長、ニックスの青木伸一会長、湘南技術センターの原田宏一社長、明光電子の十川正明社長、湘南ビジネスマネジメントの藤田博司社長、バイメタル・ジャパンの河合禧男社長、イースタン技研の河西正彦社長、ホップテックの阿部和夫社長、レヂテックスの及川泰久常務、太洋の吉田英臣専務、アマダの木村富美雄広報室専任部長。

祈祷を受けた後は本殿近くの階段で記念撮影（写真）し、若宮大路の料理店で懇親会を開いた。三木会長は「由緒ある神社で一緒に参拝でき、2014年は間違いなくいい年になる。さらなる発展のために尽力していただきたい」とあいさつ。各氏、新年にかける期待を語り合った。

新入会員

茨城産業人クラブ

▽堀　二十男氏　茨城技研代表取締役社長（茨城県北茨城市磯原町磯原1611の3、0293・43・0193、電子部品製造）

▽菊池　伯夫氏　茨城製作所専務取締役（茨城県日立市神峰町4の7の10、0294・21・5135、回転電機製作）

▽池田　稔氏　池田商店代表取締役社長（茨城県日立市諏訪町1の12の11、0294・33・0106、非鉄金属製鋼原料）

▽前田　芳男氏　みずほ銀行日立支店長（茨城県日立市幸町1の3の8、0294・23・3111、銀行業）

東京産業人クラブ

▽山見　博康氏　山見インテグレーター社長（東京都渋谷区道玄坂1の12の1、03・4360・5424、広報PR・危機対応コンサルティング）

▽林　宏至氏　海光社社長（東京都中央区日本橋浜町2の29の1、03・6661・9071、漁業資材・インテリア資材・鳥害対策資材・光源製造販売）

▽上村　輝之氏　アイディエーション・ジャパン社長（東京都千代田区神田小川町3の3、03・6273・7295、技術開発コンサルティング）

▽井坂　智博氏　インクルーシブデザイン・ソリューションズ社長（東京都千代田区有楽町1の6の8、03・6268・8028、新規事業、商品開発、教育サービス支援）

▽遠藤　由紀子氏　奥野総合法律事務所弁護士（東京都中央区京橋1の2の5、03・3274・3805、事業再生、倒産、M&A等企業法務）

滋賀産業人クラブ

▽荒木　邦彦氏　平安製作所会長（滋賀県高島市マキノ町中庄464、0740・27・1271、輸送用機械器具製造）

「ごきげん新潟弁講座」で講演会
新潟産業人クラブ

新潟産業人クラブ（佐藤金治郎会長＝佐文工業所常務）は1月20日、新潟グランドホテル（新潟市中央区）で「新春講演会＆新年会」を開いた。新潟放送の近藤丈靖パーソナリティーが「ごきげん新潟弁講座」を講演し、暖かく親しみのある方言をユーモアたっぷりに紹介した上で「方言を生活の中で多用して次世代に残していこう」と提案した。40人余りが参加し、会場は笑いに満ちていた。

新年会では佐藤会長（写真右）が「新潟産業人クラブは2014年に設立30周年記念式典を催す計画。会員の役に立つ活動のほか、全国の産業人クラブや産業団体と交流し、人脈を広げよう」と呼びかけた。新潟県産業労働観光部の庭野芳樹副部長、長岡技術科学大学の東信彦副学長、新潟県工業技術総合研究所の稲葉正夫次長、日本政策金融公庫新潟支店の石川佳孝事業統括、新潟工科大学の原利昭副学長らが駆けつけ、にぎやかに宴会が始まった。

また午年の年男である江鍛工社長）は1月21日、大阪市内のホテルで共同の新春互礼会を開いた。

中小成長へ国の予算めじろ押し
さいたま会議所、新春懇談会

埼玉産業人クラブ会員のさいたま商工会議所は1月30日、浦和ロイヤルパインズホテル（さいたま市浦和区）で新春懇談会を開いた。松永功会頭は「国の予算には中小企業の成長につながる施策がめじろ押し」と強調した（写真）。また講演会では国際エコノミストの今井澂氏が2014年の日本経済について「消費増税で大きな影響はない。右肩上がりを期待できる」と分析した。約130人が聴講した。

3Dプリンターで記念講演会開催
大阪産業人クラブと滋賀産業人クラブ

大阪産業人クラブ（山口多賀司会長＝非破壊検査社主）と滋賀産業人クラブ（坂口康一会長＝近江エルメック電子工業の松永巌顧問、佐野鉄工スプリング製作所の佐野力三社長、マックス開発の井浦康晴社長の3人が抱負を語った。楽しく情報交換し、石川事業統括が中締めをして散会した。

山口会長は安倍晋三政権の経済政策「アベノミクス」について「中小企業にも明るい兆しが出てきた」と強調した。また午年は84歳の年男であることに触れて「無事に7回目の年男の1年を迎えた。8回目はないと思うが」などと会場に集まった約400人を笑わせながら「14年もがんばろう」と呼びかけた。

記念講演会は丸紅情報システムズ（東京都渋谷区）の木全英二常務執行役員製造ソリューション事業本部統括が「3Dプリンターによる　ものづくり革命」をテーマに、造形方法などを説明した（写真）。宴会では萩尾千里大阪国際会議場相談役が乾杯の音頭をとり、にぎやかに歓談した。